

あら 荒川を大切な自然のかなめに……

ゆた 豊かな自然が残る荒川

荒川の中流から下流にかけての広い河川敷には、砂や小石の中州やヨシ原、旧流路など、さまざまな自然環境が残され多くの生きものがくらししています。

この荒川の自然は、秩父山地と下流の平野部を移動するような生きものにとって、都市化が進む埼玉県南部地域に残されたゆいーのルートとして、大変に重要なものになっています。



▲河川敷の自然は野生のキツネやウサギの大切な生活場所になっています。

荒川太郎右衛門地区自然再生地

荒川太郎右衛門地区自然再生地は、約70年前の河川改修で荒川の本流が直線となったとき、旧流路として残った3つの「池」を中心とした場所です。

この地区では、かつての豊かな自然環境を取り戻すため、自然再生推進法という法律に基づき、国、地域住民、近隣の自治体、学識経験者等で組織される自然再生協議会を立ち上げ、湿地環境の創出や河畔林の保全・再生などを行っています。



▲ハンノキ

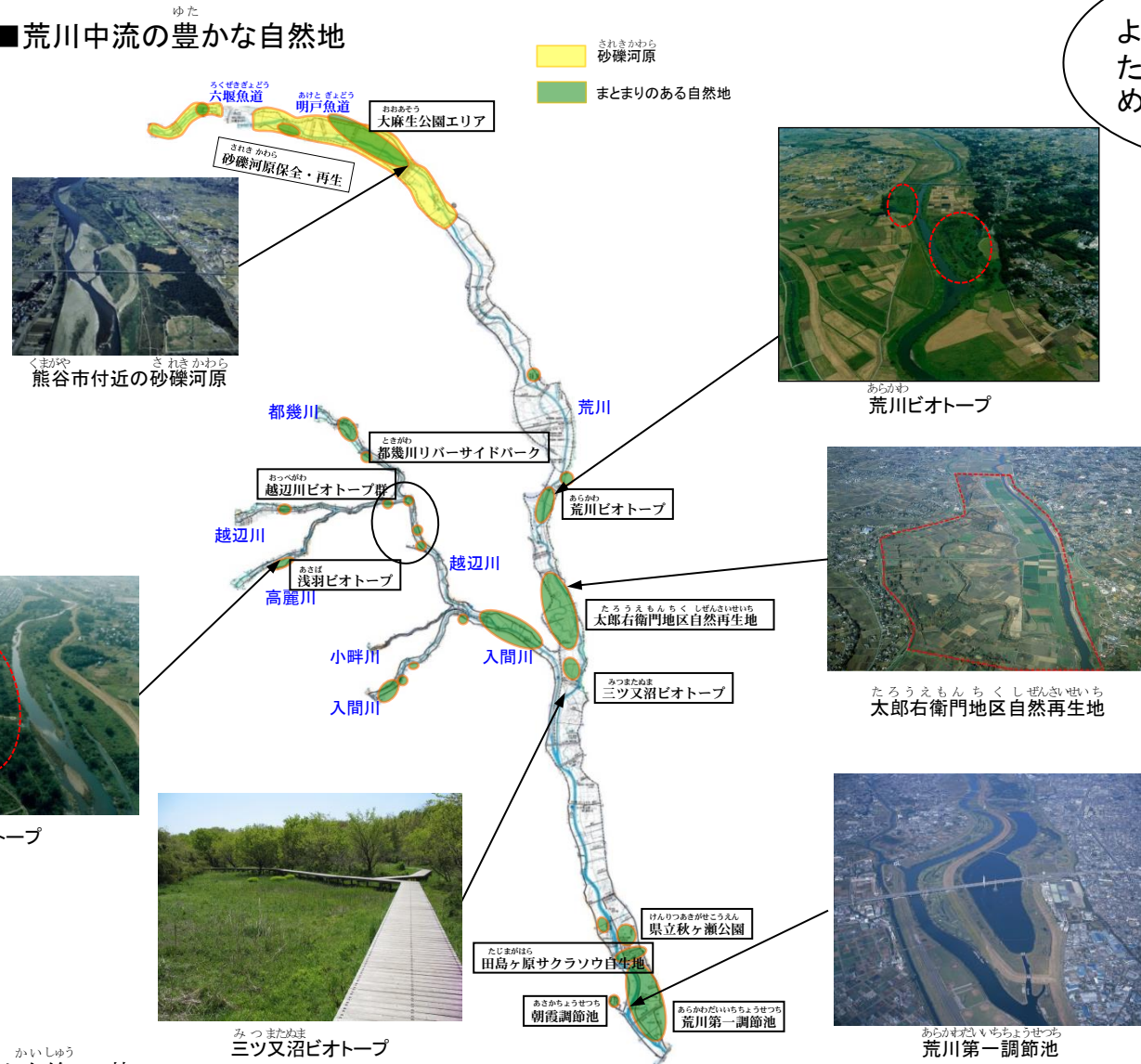


▲ミドリシジミ



▲自然再生協議会の様子

■荒川中流の豊かな自然地



より良い自然を残すための川づくりも進められているんだね。



荒川ビオトープ

荒川ビオトープは、それまで平坦な麦畑だった北本市・川島町の河川敷に、池やぬま、凹凸地、ヤナギ・ハンノキ林が整備された空間です。とりにある「北本自然観察公園」と一体となった大自然では、荒川中流の代表的な生きものの多くがくらし始めています。



(川島町)

川の豆知識 砂や小石の川原にも、多くの生きものがくらししています

河川敷には緑豊かな場所のほか、砂や小石だけの川原もあり、そこでも、コアジサシやチドリ科の鳥など、多くの生きものが生活しています。ですから、ただの砂地に行っても、生きものたちをおどろかすような行動はやめましょう。



▲荒川に広がる砂や小石の川原



▲砂れき地に巣を作り、生活するイカルチドリ